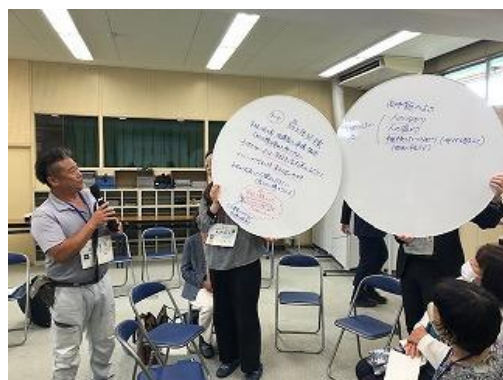


令和7年5月14日(水)

50th
ANNIVERSARY



ふじみ野市は、すべての小中学校に学校運営協議会が設置されている地域協働学校（ふじみ野市版コミュニティスクール）として、学校・家庭・地域・行政が連携協力して子供たちを共に育てる「共育」を推進しています。今日は、大井西中学校区の3校（西原小、三角小、大井西中）合同学校運営協議会が開催されました。会場は三角小です。これまで、学校運営協議会会長、地域コーディネーター、校長などの役員会議を行ってきましたが、全ての委員が参加する会議は初めての試みでした。はじめましての方々も多いことから、他校の委員さんと混合グループになり、自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行いました。研修では、学校運営協議会の役割や熟議の進め方について学びました。熟議については、学校ごとに分かれての演習の形で取り組みました。テーマは、自校の学校運営協議会の「最上位目標を立てる」ことです。これまでの取り組みや地域の特徴等を踏まえながら意見交換を行いました。本校では、「人のつながり」「人の温かさ」「世代を超えた継続したつながり」を今までも大切にしてきました。これからもそれを大切にしていきたいという思いから、最上位目標を「学校を核とした人のつながりを大切にする」に決まりました。地域協働学校の取り組みを推進するにあたり、委員の合意形成を図ることはとても重要です。今回、最上位目標について、委員が自分の想いを語り、合意形成できたことは、大変意義あることであり、今後の取り組みを進めるにあたり、寄って立つところができたとはいえます。



会議終了後、一人の委員さんから話しかけられました。生徒が人助けをしたというものです。地域のお年寄りが転倒して血だらけになっているところに、下校中の本校の2年生（女子バスケットボール部、吹奏楽部）の女子が通りかかり、けがをしているお年寄りを介抱したとのことでした。地域の人々が、そのことに気づき救急車を呼びましたが、救急車が来るまで、ずっとそばについていてくれて、大変助かったとおっしゃっていました。

奉仕の精神については、JRCの取り組みにあるように、本校の教育活動の大きな部分です。それが、学校外でも実践されていることを知り、大変うれしく思い、また生徒を誇りに思いました。

また、私が自治会の総会に出席したときも、地域の方々から「西中生は、最近よく挨拶してくれる。」とおっしゃっていただけました。S級のあいさつは、生徒たち自身が決めた本校の伝統ですが、これも地域社会の中で実践できるまでに成長していることを知ったところです。

地域の方々は、西中生のことを常に気にかけ、そしてその行動をよく見てくれています。地域から愛情をもって見守っていただいている本校の生徒は、本当に幸せだと感じました。